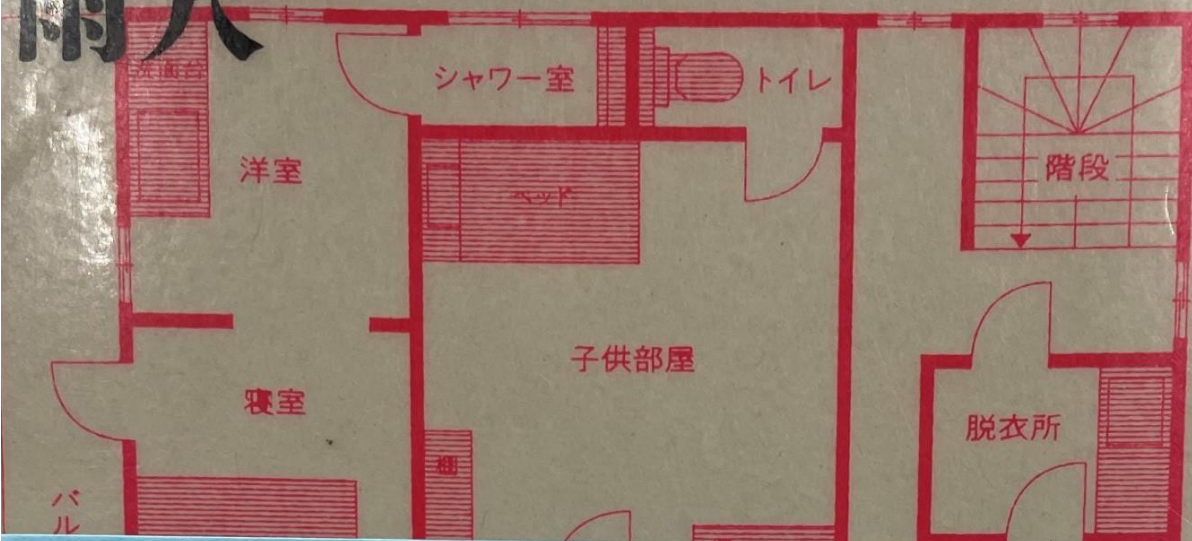


# 雨穴



変な家という本の魅力は、想像を働かせながら変な家の謎を解決するところだ。この本は、不可解の点がある家の不可解な点を解決していくという話だ。最初に知人から買おうとしている家について相談された。知人の買おうとしている家の間取りを見ると不可解な点があった、それは、キッチンとリビングの間に謎の空間があるのだ。この不可解な点を解決するために大手建築事務所に勤めている栗原という人物に謎の空間のことを相談した。栗原に家の間取りを見せるとなにかは分からないが意図的に作った物だといった。またこの空間だけではなく二階の間取りも不可解な点が多くあった。その不可解な点がなぜ作られたのかを解決するために憶測や事情を色々な人に聞き始めた。事情や憶測を考えていくごとに殺人のために作られた家と言う考えに栗原と筆者は、なっついていった。それでは、どうやって殺人をしたのかを考えていくと最初に出た不可解な点があります何があったのがわかってきた。この家を作ったのは、誰なのでしょう。